

(63) 八総(はちそう) 鉱山跡一追記

本追記を読む前に、既報を読んでおくことを勧める。10年ぶりに現地を訪れた。現地の現状の確認、及びGPSであるガーミンを用いての経路ログの獲得を兼ねた。今回、新たに館岩川沿いにある鉱山跡を確認したのでその報告も行う。この鉱山の呼称を著者は知っていないので、一応「八総鉱山」跡に分類することにした。つまり八総鉱山跡は3カ所あるとした。

2020年8月

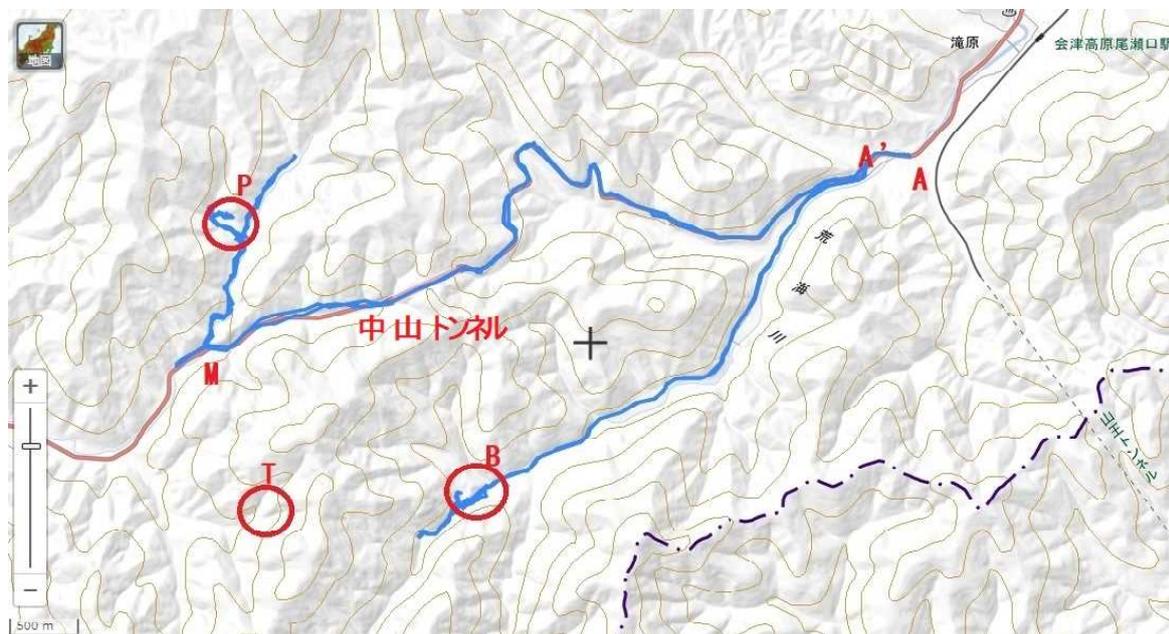


図1 B、P、Tの赤輪のところに鉱山跡を確認。B、Tの鉱山跡については既報も参照すると良い。今回は新規にPの所の鉱山跡も訪問した。B点の所へは352号をA点、或いはA'点で荒海川沿いの林道に入って西行していく。P点の所へは、352号の峠にある中山トンネルを抜けてからM点で、館岩川沿いの林道に入り北上して行く。T点の所の鉱山跡については、今回訪問していない、既報を参照すること。遅くないうちに再訪したい。

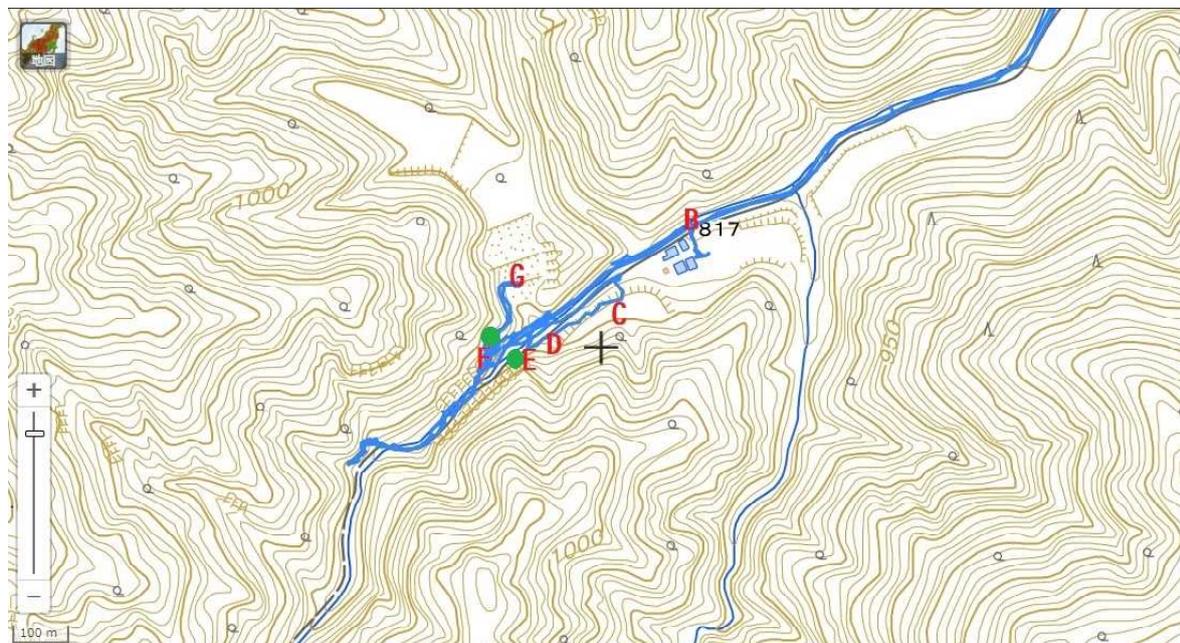


図2 図1の部分拡大図。田島側の鉱山跡である。訪問時、中和設備の工事中であった。廃鉱山になって50年以上もたっているのに、環境汚染を防止するために現在に至っても保全作業が欠かせないようである。B点には沈殿池等がある。この地形図から一目瞭然であろう。地形図中に4つの水色の四角が見えているので。C点は川の右岸にあった広く平らな高台、ズリの堆積所でもあったようである。このあたりから川の右岸の長い土地に鉱山施設の痕跡が認められる。E点、F点の所の黄緑丸が確認した坑口跡。

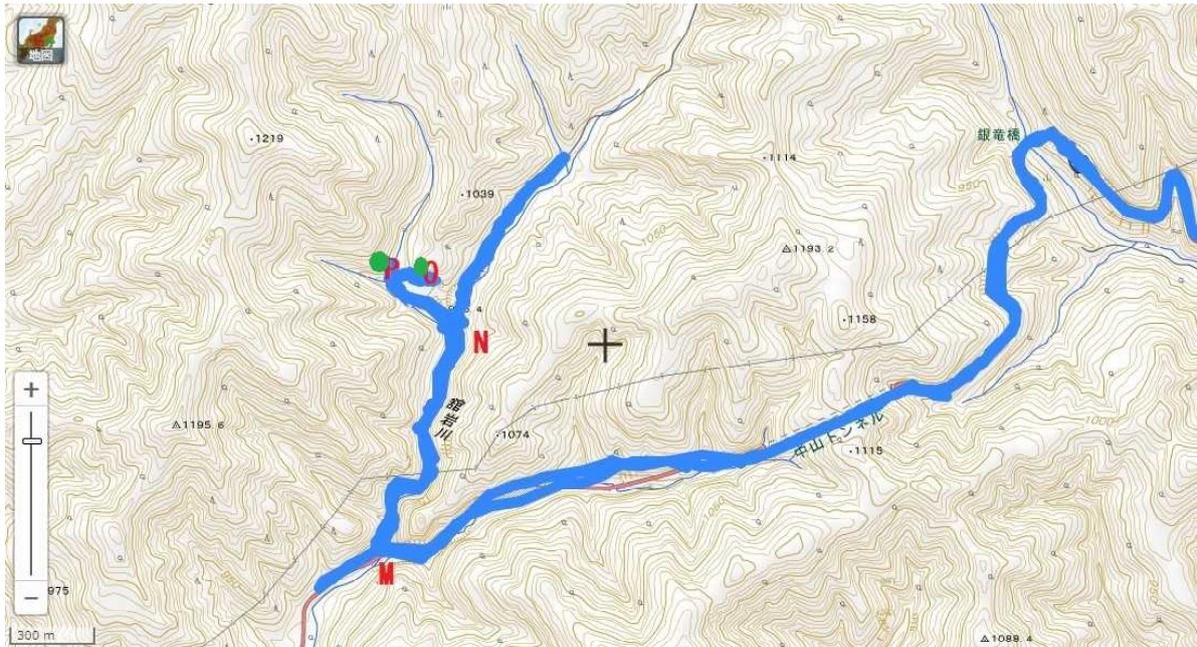


図3 図1の部分拡大図。M点から鑛岩川に沿った林道に入っていく。N点の所に適当な広さの空き地がある。川の右岸にはこれも広大な沈殿設備がある。O点は遠くから視認できる露頭鉞脈岸壁。P点には、確り管理された坑口跡がある。黄緑丸は坑口跡。

鉞山跡写真

田島町側



写真1 352号を進んで来て、会津高原尾瀬駅を過ぎて登りに気味になったA点。既報の写真も参照。側道の林道の入口にあった案内板には「大総鉞山跡」が明記されている。現在、ここから林道には入れない。指示に従って迂回路から入る。



写真2 A点の直ぐ先のA'点である。鉞山跡へは左側の側道に入っていく。



写真3 川の右岸のB点の林道脇にあった地蔵尊。八総鉦山関係の没故者を供養している。あまり古びていないので、近年に設置されたのかも。



写真4 C点付近。川の右岸の高台である。ズリで出来た広大な「広場」と思うが。じっくり地面を見ていけば、良い標本が見つかるかも。



写真5 D点である。川に保全用のものであろう橋が架かっている。脇には鉦山汚染水の排水用であろう導水管も施設されている。対岸の沢は大規模なズリ堆積場となっているのが図2の地形図から読み取れる。橋の欄干のペンキは新しそうである。現在でも定期的に維持管理しているのであろう。



写真6 E点付近。林道脇の赤輪付近に坑口跡がある。次の写真7参照。林道は荒海山の登山ルートにもなっているので良く整備されている。



写真7 写真6で示している、林道の脇にあった閉塞された坑口跡。草木が生い茂った時期には隠されてしまうかも。



写真8 F点である。広場となったところの山側にある坑口跡。既報の写真で見られるように10年前は簡単に閉塞されたものであったが、確りとした跡処置がなされている。何故なのだろうか？

館岩川沿い



写真9 峠のトンネルを通り抜けて、下ってきた。M点である。右側の林道に入っていく。



写真10 N点である。前方には多分、鉦排水の中和施設であろう。写真を外れた左手には広大な沈殿池群がある。



写真11 林道から見たO点の露頭鉱床跡。



写真12 O点である。中央に坑口跡も見えている。



写真13 P点である。立派に管理されている坑口跡。坑内湧水の排水用であろう太いパイプが施設されている。

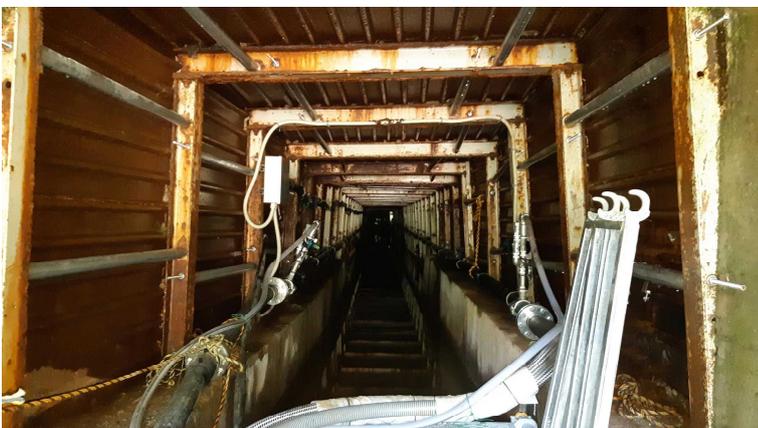


写真14 入口の鉄格子の間から内部を覗く。立派に坑内保全がされている。このような「立派」な廃坑道は、著者にとっては全く珍しい。

(63) 八総(はちそう) 鉦山跡

主たる鉦山跡は、田島町側と館岩村側の2箇所にある。田島側の鉦山跡へは、次のような経路を辿る。352号を会津高原から館岩村方向に進んでいく。途中、袋口地区で左側に伸びている林道に入っていく。この林道は荒海川に沿って西南西の方向に長く伸びている。この林道に入ってから、約4kmの所で、左側に鉦山施設跡と大きなズリ跡に達する。地形図中の赤い長い楕円の所である。このあたりに車を駐車できる。この付近には、荒海山を目指す登山者が駐車していることもある。鉦山施設跡では現在でも、坑内湧出水の処理が行われている。ズリは巨大であるが、めぼしい標本は全く採集できなかった。林道を徒歩で先に進んでいくと、沢を渡ってパイプ列が掛けられている箇所がある。パイプは坑内湧水の回収のものであろう。パイプの先は、山の斜面内に突き刺さっている。パイプの先には坑口があったのであろう。林道を先に進み、ズリの終わった少し先の左手に坑口跡がある。更に進んで、橋を渡った右側に、平らな原っぱがあり、山側に閉塞された坑口跡がある。共に、地形図中に黄緑丸で示している。

国土地理院5万分の1「糸沢」大正元年測図の旧地形図を後掲している。これによれば、八総鉦山は、当時は館岩村側にだけあったことがわかる。この旧地形図を道案内に戸坪沢に沿って林道らしい跡を登っていき鉦山跡を探索した。大きなズリ跡とその上に坑口跡を見つけた。鉦山施設跡らしい箇所もあった。図中にそれを記している。ズリには現在でも全く草木が生えていない。このズリ跡では黄銅鉦の小さい結晶が沢山入っている母岩が良くあった。採集に時間を掛ければ、気に入る標本を採集できよう。



最新地形図 国土地理院2万5千分の1地形図「荒海山」。赤色は鉦山施設跡、黄緑色は坑口跡、ズリ跡は赤色文字で記している。

探査日 2010年4月、その他の日



旧地形図 国土地理院5万分の1「糸沢」大正元年測図。左下に「八総銅山 鉦山記号」が記されている。この銅山までの沢に沿った道も明記されている。最新地形図にこれらを記載している。翌見ると、この時代には田島側は未だ開発されていなかった。

鉦山跡写真

田島町側



沢口地区での分岐点。352号は右前方に延びている。左の林道に入っていく。



鉦山跡の先にある巨大なズリ跡。林道の後方に向かって撮影している。めぼしい標本は全く採集できなかった。



上の方の坑口跡。手前は原っぱになっている。当時は、しっかりした施設があったのであろう。

館岩村側



戸坪沢に沿った林道の入り口が正面に見える。戸坪沢は右の方の大分先にあるが。352号は左右に延びている。手前の広場は広い駐車場となっている。チェーン脱着上広場であるようだ。ここに車を止めて、林道へと歩いていく。



上記林道を進んでいくと、写真のように、前方で、林道が左右に分岐している箇所に行き着く。草木が茂っていないときには直ぐわかろうが、左側の林道を進む。右側の林道は平坦であり、左側の林道は少し登りとなっている。



林道の終点先に見えた大ズリ跡。沢は右側にある。



前記のズリの右側を登り上がると、平らな原っぱがある。その先にあった閉塞された坑口跡。八総鉦山に関する乏しい知識からすると、この坑口が田島側の坑口と連結しているものと思われる。

採集鉦物写真



上記のズリで適当な石をハンマーで叩いた。割れ目一面に微細な黄銅鉦が母岩と共に分布していた。片方を標本として採集した。このズリ跡では、現在でも結構な標本を採集することができよう。